

学会賞の選考結果について

証券経済学会賞選考委員会

1、 応募状況

応募数2点(著書2点)

2、 選考結果

最優秀賞 該当なし

優秀賞 岡村秀夫『日本の新規公開市場』東洋経済新報社 2013年

3、 講評

選考にあたって、以下の基準で審査を行った。

- ・専門論文としての要件を満たしているか
- ・研究内容にオリジナリティがあるか
- ・著者の問題意識や分析視点が明確で、論文としての完成度が高いか
- ・先行研究を十分に消化しているか

応募業績のうち1点の業績については、不適當合併に該当すると判断された事例について、不適當とされた根拠が分析されている。これまでに見られないオリジナルな労作であることは評価できるが、個別事例の分析を列挙するにとどまる。詳細で貴重な事例研究と認められるが、全体を通した著者の分析視点や結論が明確になっていないことから、学会賞には適當でない判断された。興味深いテーマであるので、事例研究が今後の研究に活用されることを期待したい。

岡村秀夫氏の著作は、新規公開市場での公開価格と初値の乖離から、新規公開株式の価格形成の問題点と、株価のその後の低迷について分析したものである。日米の先行研究が体系的にまとめられており、研究史として包括的である点がまず高く評価される。分析は情報の経済学と行動ファイナンスの知見に基づき計量的な手法で行われ、公開価格の決定方式の変遷をふまえながら、多様な切り口で検討が加えられている。基礎的な分析に続いて、入札情報との関係、半年効果などアメリカで検証された事実が日本でも存在するかという点が分析され、続いて、日本の公開市場の特徴である子会社上場や所有構造の影響が検討されている。初値の効率的形成を問い直している点や、系列関係・筆頭株主の持ち株比率の影響を分析した点はオリジナリティが高い。多様な要因が複雑に絡み合っていることもあるが、結論の重点がややあいまいであること、公開市場の担い手やそのバイアスなど公開市場の構造にもっと踏み込んだ分析を求めるとする意見もあり、優秀賞にふさわしいと判断される。

以上